

壱岐・原の辻遺跡出土人骨の年代測定結果

松下孝幸*・米田 穰**

1. はじめに

長崎県壱岐市にある原の辻遺跡から2001年2月に出土した人骨は埋葬姿勢が側臥屈葬という弥生時代にはみられない葬法で出土し、しかも顔面を東に向けて頭蓋を起こした不思議な姿勢で検出された。この土壌墓から弥生中期の土器片が出土していることから人骨の所属時期は弥生時代中期と推測されていた。弥生時代とは思えないような埋葬姿勢であったため、所属時期に疑問を持ちながら、人骨の鑑定をおこなったところ、その形質的特徴はきわめて明瞭で、鼻根部には古墳時代以降を示す特徴はまったく認められず、高・狭顔の特徴を示し、推定身長は169.67cmという高身長値を示した。この人骨はどこからみても、北九州・山口タイプの渡来系の人骨であった。原の辻遺跡から出土した貴重な人骨であるばかりではなく、埋葬方法や埋葬姿勢などがこれまでの常識とは異なることから、所属時代・時期を確定する必要があった。東京大学の新領域創成科学研究科にある加速器を使用して、年代測定をおこなったので、その結果を報告しておきたい。

2. 資料と方法

資料名：原の辻 2001-1 人骨

方法：AMS：加速器質量分析法 (Accelerator Mass Spectrometry)

3. 測定結果

未補正 14 C年代は 2009 ± 67 BP で、この年代を較正すると、1811～2044 calBP に相当する。窒素同位対比が 11‰ と高い値を示しており、海産物を摂取していた可能性があるため、海洋リザーバー効果を補正する必要があり、分析結果は 200 年ほど古くなっている可能性もある。しかし、どんなに新しくても古墳時代前期頃で、古代、中世の人骨でないことは確実である。

《参考文献》

1. 松下孝幸、1995：長崎県壱岐原の辻遺跡出土の弥生時代人骨。原の辻遺跡（長崎県文化財調査報告書第124集）：209-220。
2. 松下孝幸、2001：長崎県壱岐原の辻遺跡出土の弥生人骨。特別史跡原の辻遺跡（原の辻遺跡記念物保存修理に伴う発掘調査）（芦辺町文化財調査報告書第12集）：127-149。
3. 山口信幸、2001：特別史跡原の辻遺跡－原の辻遺跡記念物保存修理に伴う発掘調査－（芦辺町文化財調査報告書第12集）、芦辺町教育委員会。

* Takayuki MATSUSHITA 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

** Minoru YONEDA 東京大学大学院新領域創成科学研究科

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

研究紀要

第5号

発行年月日 2010年3月
編集・発行 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム
〒759-6121 山口県下関市豊北町神田上 891-8
TEL 083-788-1841・1842
FAX 083-788-1843
印刷 アリフク印刷株式会社
〒759-5101 山口県下関市豊北町栗野 4896-8
TEL 083-785-0311
FAX 083-785-0312
